

あなたの心に本の処方箋

本を葉に見立て、症状別におすすめの本を紹介！「最近笑っていない」「女子力アップ」「ケンカをしたとき」など、袋に書かれた効能を参考に選んでもらい、中にどんな本が入っているのかは袋を開けてみるまで分からない！

いつもなら手に取らない本、読んだことのないジャンルの本を読む機会となり、「ワクワクしながら選びました」「自分ではなかなか借りない本を読めました」という感想をいただきました。感想の中で、いくつか「おくすり本」を利用した人の声をお伝えします。

■借りた「おくすり本」の感想は？■

- ・効能 人生に行き詰った時、笑顔と元気が取り戻せる
- ・題名 ぼくは勉強ができない（山田詠美／新潮社）
- ・感想 私は高校を卒業して50数年になります。今は孫が高校生です。孫がどんな気持ちか、この本を読んで少し分かったような気がしました。（ペンネーム／匿名希望）

- ・効能 小さな子供の声に耳を傾けずにはいられなくなる
- ・題名 わかってほしい（MOMO／クレヨンハウス）
- ・感想 虐待が、ひとだけではなく、自分も憎む子どもにしてしまう恐ろしさを短い言葉で実感させられる本だと思います。自分で選ぶ本ではなかったけれど、読んでみてよかったです。（ペンネーム／リーちゃん）

■あなたのおすすめする

「おくすり本」を教えてください！■

- ・効能 相手の気持ちを想像できるかも！？
- ・題名 どんなかんじかなあ（中山千夏／自由国民社）
- ・内容 主人公の男の子は、目が見えない、耳が聞こえない子。地震で親を亡くした子に「それはどんな感じ？」と聞いて次々と“自分だったら”と想像するのです。主人公は車椅子の生活ですが、いつも様々な事を想像しているのです。相手の事がよくわからない、気持ちがわからない時は、「どんなかんじかなあ」と想像する気持ちが人間関係をやわらかにすると思います。（ペンネーム／デミ）



新刊情報

メシマズ狂想曲 秋川滝美／著 小学館

滝田和紗、34歳。独身。彼氏の作り方も料理の作り方もさっぱり分からないまま、キャリアを重ねて、気がつけば係長に。出世は早いけど、このままでは、仕事と心中してしまう！？女性としての幸せって何！？仕事と外食ばかりでは、体も心も疲れるばかり。ゼロから料理を始めた！恋にだっておいに興味がある！そんな30代ちょっぴりさみしい女子、必読の一冊！



おならおばけ かとうまふみ／作 講談社

おーくんが、夜中に思いっきりおならをしたら、おならおばけがでてきたよ！おならって、きらわれもの？いえいえそうじゃないんでスゥ〜。それはね……。これを読んだら堂々とおならがしたくなる、おなら・ファンタジー絵本。



ふつうの住まいでかなえる外国スタイルの部屋づくり

インテリア垢抜けテクニック50 ヘザー・ブラッキン／著 文藝春秋

母は作家の森瑤子、父はDIY大好きなイギリス人、ホームスタイルプロデューサーとして雑誌やウェブなどで活躍しているヘザー・ブラッキンさん。ヘザーさんの自宅を訪ね、キッチン、リビング、寝室、トイレや脱衣所、クローゼットや引き出しの中…と、隅々まで撮影。ちょっとした工夫で誰でも真似できる、憧れの「外国風インテリア」の裏ワザをたっぷり紹介します。



おいでよ！おはなし会

- とき 1月14日(土) 午後3時～4時 1月28日(土) 午前11時～正午
- ところ 児童コーナー

1月の休館日（○…休館日）

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
| ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ | ⑬ | ⑭ |
| ⑮ | ⑯ | ⑰ | ⑱ | ⑲ | ⑳ | ㉑ |
| ㉒ | ㉓ | ㉔ | ㉕ | ㉖ | ㉗ | ㉘ |
| ㉙ | ㉚ | | | | | |

日田の輝き人をご紹介します

HITAJIN

寒い冬には「温かい鍋」が必須！そんな「鍋」に欠かせない野菜の主役といえば白菜です。今が旬の白菜を町野原台地で育てているのは、就農10年目の伊藤悠介さん。伊藤さんは、早くにお父さんを亡くし、若い頃から後継者として農業に従事してきました。20歳の頃、体調の優れないお父さんから「帰って農業を手伝ってほしい」と頼まれ、頼りにされた嬉しさと、お父さんと一緒に農業ができる楽しさで、決まっていた公務員への就職も断わり、日田に帰ることに迷いはなかったそうです。みんなに愛され、頼りにされてきたお父さん。そんなお父さんの背中を見ながら育ってきた伊藤さんは「尊敬する人はいますか」との質問に、迷わず「お父さん」と即答。現在、2・5ヘクタールの畑で、秋冬は「白菜」、春夏

お父さん。今年も立派な白菜が育ちました！



伊藤悠介さん



は「スイカ」を栽培。白菜の栽培には、体力と神経を人一倍使うそうです。普段はこの広い畑を一人で切り盛りしている伊藤さん。「忙しい時期は、お母さんや親戚、ご近所の方々が手伝いにきてくれるので、とてもありがたい。毎日感謝しています」とほほ笑みながら話してくれました。白菜は、種を蒔いてから収穫するまでに60日、70日、80日と種類があり、収穫時期を少しずつずらしているそうです。「玉約2・5kg以上あり収穫作業はきついが、重ければ重いほど手応えを感じる。重さや大きさが均一に揃うと嬉しい」と語る伊藤さんの姿はとても頼もしく感じられました。そんな伊藤さんですが、就農当初は、消毒の時期が遅れ、葉が虫に食べられたり腐ったりしたそうです。「分からないことがあればすぐ周りの先輩方に相談し、同じ失敗をしないように気を付けている。先輩方にはとてもお世話になっている」と語ります。10年、20年後はもっと農地を増やし、自分の思い描く農業にしたいと話す伊藤さん。しかし、今は周りの人に付いていくことで精一杯で、まだまだ50%にも達していないそうです。また、8か月のお子さんを持つ新米パパである伊藤さん。お子さんには「まずは夢を見つけたい。一度は外に出てほしいが、いずれは息子と一緒に農業がしたい」と父の顔で目を細めます。

これからの季節、「鍋物」をはじめ、いろいろな料理で大活躍する白菜。今夜は、愛情たっぷり育てられた日田の白菜に思いを馳せながら、温かい鍋を囲んでみませんか？

地域おこし協力隊活動⑤

地域を盛り上げます！

今回は奥日田の自然に刺激を受けている長さんのご紹介です！

日田のみなさん、明けましておめでとうございます。

私は2016年の6月に長く暮らした東京から前津江町に移住してきました。

普段は地域おこし協力隊として、自然あふれる奥日田地域のアウトドア活動を中心とした観光資源のリサーチや再発見、2016年より立ち上がった『奥日田デザイン会議』事務局でのプランニングや提案・実施を中心に活動しています。

私自身がキャンプや釣り、トレッキングやサイクリングなどを元々楽しんでいたり、奥日田のあちこちを訪ね歩くことは興味深く、自然と共に暮らす様々な風景との出会いも日々刺激になっています。

肌で奥日田の自然を感じてもらうこと…これをテーマに山に親しみ、川を渡り、もっと多くの方々に奥日田でお会いできたら、と思うこの頃です。

こちらへ移って半年と少し。日田の冬を楽しみながら、2017年も自然の近さを感じて活動したいと気持ちを新たにしています。



ごう 長 蒙 さん